

Milesight



VS361

店舗用來客センサー

ユーザーガイド

目次


目次	2
第1章 はじめに.....	3
著作権表示.....	3
安全に関する注意事項.....	3
改訂履歴	4
第2章 製品紹介.....	5
梱包明細	6
ハードウェア部品	6
主要部品	6
装置の寸法.....	8
第3章 電源.....	9
第4章 DO配線.....	11
第5章 デバイスの設置.....	12
屋外設置.....	16
第6章 サービス.....	21

第1章 はじめに

著作権表示

本ガイドは、Xiamen Milesight IoT Co., Ltd（以下「Milesight」といいます）の事前の書面による許可なく、いかなる形式または手段によっても、翻訳、改変、翻案などの派生作品を作成するために複製することはできません。

本ドキュメントの日本語版は、Milesight社の許諾のもと、ウェーブクレスト株式会社により翻訳されたものです。本書の記載内容と英語版の原本との間に相違や齟齬がある場合は、英語版の内容が優先されるものとします。

 当社は、事前の通知なしに本ガイドおよび仕様を変更する権利を留保します。すべてのMilesight製品の最新仕様およびユーザーマニュアルは、当社の公式ウェブサイト <http://www.milesight.com> でご覧いただけます。

安全に関する注意事項

この操作ガイドは、お客様が製品を正しく使用し、危険や財産の損失を防ぐことを目的としています。操作ガイドの指示に従わなかったことにより生じた損失や損害について、Milesightは一切の責任を負いません。

警告：

これらの警告を無視した場合、重傷や死亡事故につながる恐れがあります。

- 設置および保守は、資格を持つサービス担当者が実施し、現地の電気安全規制を厳守する必要があります。
- 設置前に、本製品の電源を切ってください。
- 火災や感電の危険を防ぐため、設置前は本製品を雨や湿気から遠ざけてください。

注意：

これらの注意事項を無視すると、怪我や機器の損傷を引き起こす可能性があります。

- 本製品は基準センサーとして使用することを意図したものではなく、Milesightは不正確な測定値に起因するいかなる損害についても責任を負いません。
- 本製品を分解したり、改造したりしないでください。
- 本製品を、裸火のある物の近くに置かないでください。
- 本機器を、動作温度範囲を下回る／上回る場所に設置しないでください。



- 本機器に衝撃や打撃を与えないでください。
- 本体のレンズの清掃には、柔らかく乾いた布をご使用ください。化学洗剤の使用は避けてください。

改訂履歴

Release Date	バージョン	改訂内容
Jan. 7, 2026	V1.0	初期版

第2章 製品紹介

この章では、製品の基本情報について説明します。

概要

VS361は、拡散型光電スイッチ技術を採用した歩行者交通量計測センサーです。赤外線ビームを照射し、物体からの反射を検知することで歩行者を検知し、正確なピープルカウンティングを可能にします。屋外での顧客動線分析に向けた、エントリーレベルかつコストパフォーマンスに優れたソリューションとして位置付けられており、IP65の防水性能と1～9メートルの調整可能な検知範囲を備え、あらゆる環境下での確実な適応性を保証します。歩行者動線の傾向を分析するための重要なデータを提供するように設計されており、スマート小売分析エコシステムにおいて、店舗への来店率を算出するための重要な構成要素となります。

本製品は、店舗のウィンドウや通路、および同様の環境で使用できます。主な特徴は以下の通りです：

• 実証済みの信頼性と容易な導入

- 成熟した拡散反射技術を採用し、一貫性のある信頼性の高い検知を実現します。
- すっきりとしたデザイン、多彩な取り付けオプション、防水ケーブル入口により、迅速な設置と導入に対応します。
- Power over Ethernet (PoE) に対応しており、追加の電源配線を必要とせず、ネットワークケーブル経由で給電が可能です。

• 環境耐性

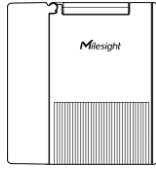
- IP65規格の筐体により、防塵・防水性能を確保し、過酷な環境下での導入にも対応します。
- さまざまな用途に合わせて、最大 9メートルまで範囲を調整可能です。
- 周囲温度の変化に影響されない安定したパフォーマンスを実現します。

• 統合された分析エコシステム

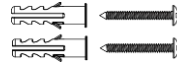
- VS12X/VS13X屋内ピープルカウンティングセンサーおよびUR32 DIルーターとシームレスに連携し、店舗来店コンバージョン率の分析を可能にする包括的なソリューションを形成します。
- DIデバイスを直接接続に対応し、正確かつ信頼性の高い計測が可能です。

梱包明細

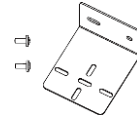
この章では、梱包明細について説明します。以下のリストと照らし合わせて内容物を確認し、すべての品目が揃っているかご確認ください。品目が不足している場合や破損している場合は、担当の営業担当者までご連絡ください。



1 × VS361 センサー



2 × 取り付けキット



1 × 取り付けブラケットキット



1 × 防水グロメットおよびプラグセット



1 × 保証書

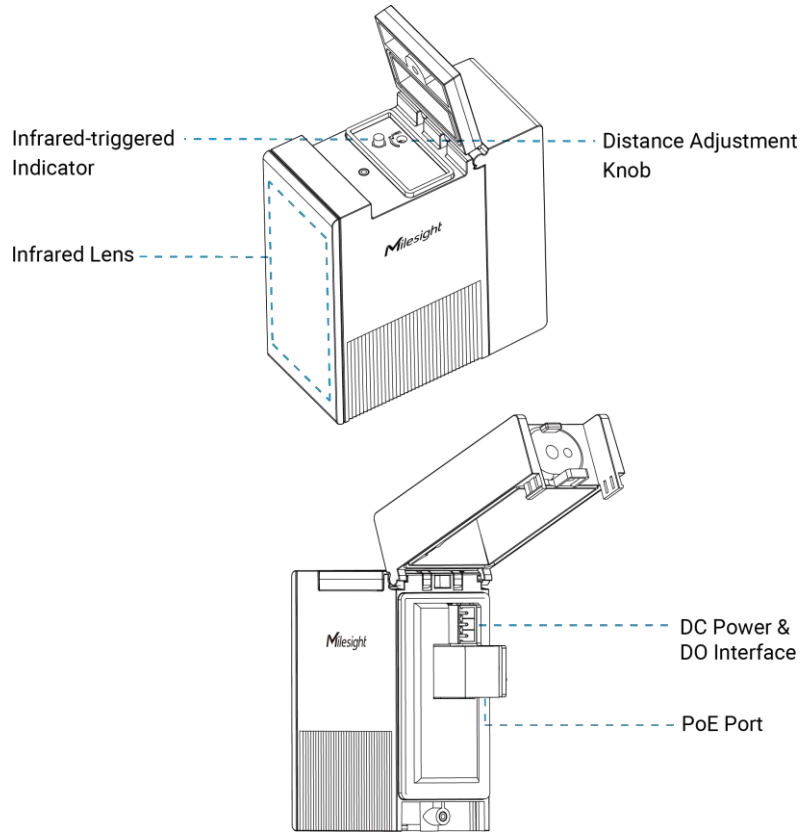


1 × 設置ガイド

ハードウェア部品

主要部品

次の図は、本装置の主要部品を示しています。



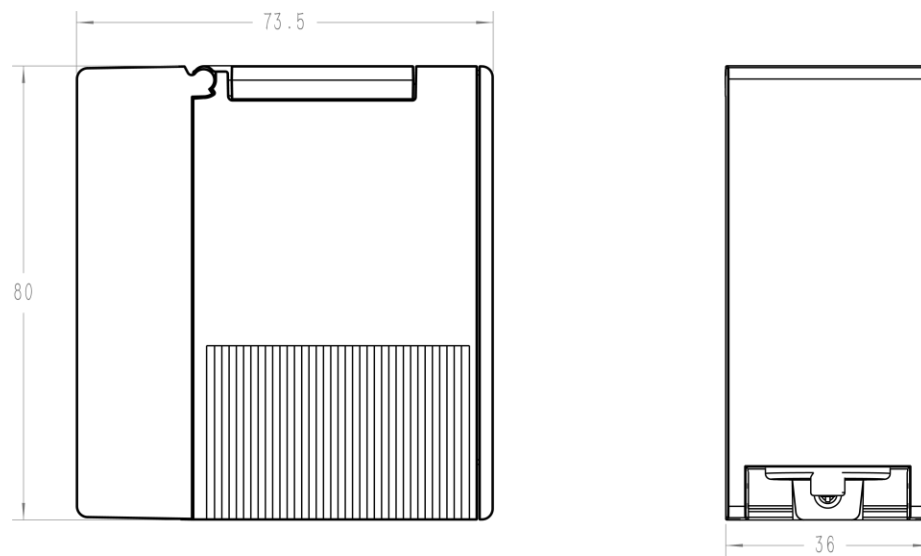
各コンポーネントの説明については、次の表を参照してください。

Name	Description
Infrared-triggered Indicator	物体の遮蔽が検出されると、インジケータが点灯し、認識状態を表示します。
Distance Adjustment Knob	ノブを回して検知距離を調整します。時計回りに回すと距離が長くなり、反時計回りに回すと距離が短くなります。
Infrared Lens	赤外線ビームの送受信を行う中核となる光学部品です。 赤外線レンズの表面にほこりや汚れが付着した場合は、柔らかく乾いた布で優しく拭き取ってください。化学洗剤の使用は避けてください。
DC Power & DO Interface	DC、GND、DOの3つの端子が含まれています。 電源インターフェース（DC および GND）：電源インターフェースです。

Name	Description
	DO インターフェース (DO および GND) : サードパーティ製デバイスの DI (デジタル入力) に接続します。物体の障害物が検出されると、このインターフェースはローレベルの信号を出力します。
PoE Port	このポートは、電力供給を受けるための 802.3af PoE 受電デバイス (PD) 入力としてのみ機能します。データ信号の送受信は行いません。

装置の寸法


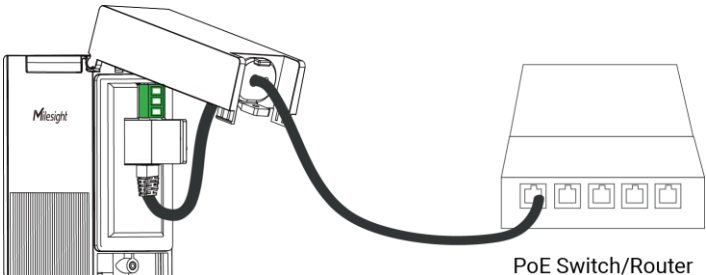
次の図は、本装置の外形寸法 (単位 : mm) を示しています。



第3章 電源

このセクションでは、デバイスの電源を入れる方法について説明します。

- 以下の電源供給方法のいずれかを選択できます。
 - 本装置は、DC 電源アダプタ（12～60V、1mA）で電源を供給することができます。
 - 本デバイスは、PoE対応スイッチまたはルーター（802.3af準拠）から給電できます。
- その後、ケーブルを接続してください。

If	Do
Powered by a DC power adapter	<p>端子に接続してください：</p> <ul style="list-style-type: none">VIN：電源のプラス端子に接続してくださいGND：電源のマイナス端子に接続してください注： <p>極性を正しく接続してください。極性を逆にすると、デバイスが破損する恐れがあります。</p> <div data-bbox="613 1178 1422 1352" style="background-color: #e0f2f7; border-radius: 10px; padding: 10px; margin-top: 20px;"></div>
Powered by a PoE switch or router	<p>イーサネットケーブルの接続:</p>  <p>The diagram illustrates the connection of a camera to a PoE Switch/Router. On the left, a camera is shown with an Ethernet cable plugged into its back. The camera has the brand name 'Miesight' visible. On the right, a PoE Switch/Router is shown with several Ethernet ports on its front panel. A thick black line representing the Ethernet cable connects the camera's port to one of the ports on the switch/router.</p>

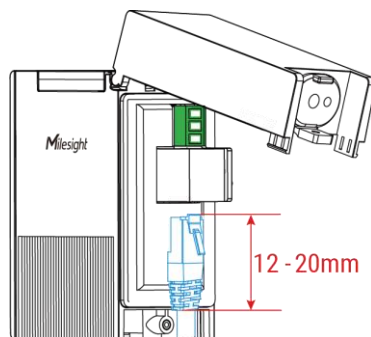
If

Do



注：

イーサネットケーブルのクリスタルヘッドの長さは、12～20 mmでなければなりません。

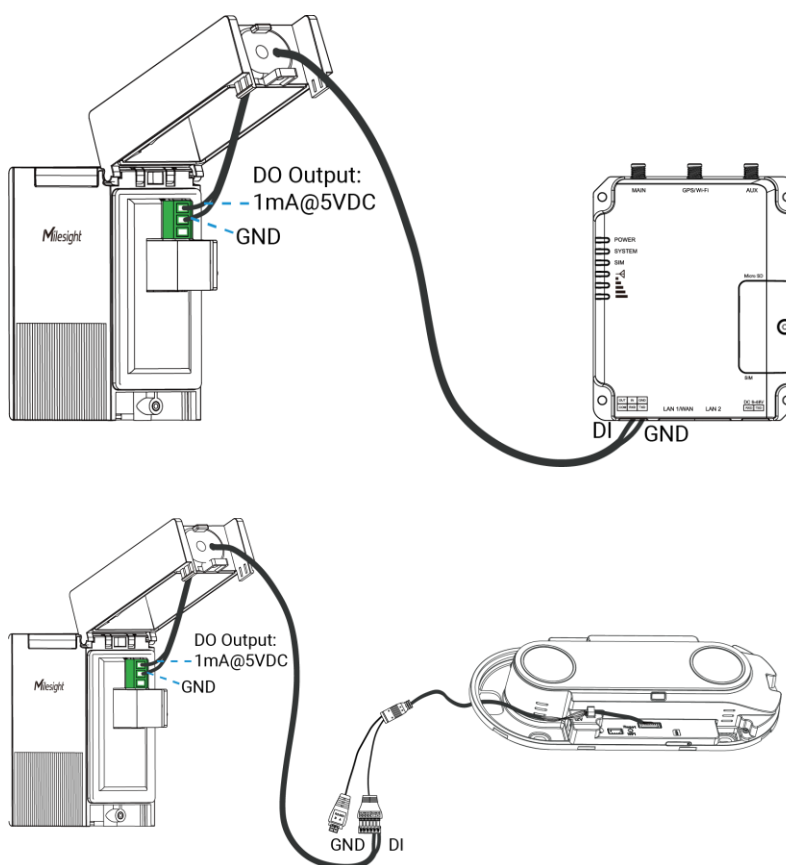


第4章. DO配線

本デバイスは、DIデバイス（ルーターや屋内人数カウントセンサーなど）に接続するためのレベル信号出力を提供します。

接続先端子：

- DO：信号出力。
 - 物体の遮蔽が検出された場合：赤外線トリガーインジケータが点灯し、デバイスはローレベル信号を出力します。
 - 物体の障害物が検出されない場合：赤外線トリガーインジケータは消灯したままとなり、デバイスはハイレベル信号を出力します。
- GND：接地（電源のGNDと共用）
 - 出力電流：5VDC で 1mA 以下



第5章 デバイスの設置

このセクションでは、デバイスの取り付け方法について説明します。

環境要件：

- 直射日光や赤外線源（リモコンなど）を避けてください。
- 検知経路が遮られることなく、障害物がないことを確認してください。
- 屋外に設置する場合は、防水グロメットが正しく取り付けられ、すべてのネジが締め付けられていることを確認し、IP65の保護等級を確保してください。
- 接着剤を使用して本製品を表面に取り付ける際は、以下の点にご注意ください：
 1. デバイスは、乾燥していて、平らで、頑丈で、油分のない表面（ガラスや金属など）に取り付けてください。
 2. 表面が粗い、湿っている、崩れやすい、油っぽい、または壁紙が貼られている場所には、本製品を取り付けしないでください。
 3. 取り付け前に、清潔な布で表面を拭き、ほこりや油分がないことを確認してください。
 4. デバイスを表面に貼り付けた後、しっかりと押し付けて、完全に密着していることを確認してください。最適な接着効果を得るには、**24時間**ほど置いてください。
- ネジを使って機器を壁に取り付ける際は、以下の点にご注意ください：
 1. 壁の材質は、ネジが確実に固定され、構造全体が頑丈であることを保証するために、十分な強度と安定性を備えている必要があります。
 2. 壁の構造への損傷や安全上の危険を防ぐため、ネジは壁内の電気配線、水道管、その他の設備を避けて取り付けする必要があります。

設置場所の要件：

- 推奨設置高さ：0.7～1.2 m。
- 調整可能な検知距離（障害物なし）：1～9 m。

制限事項：精度に影響を与える制御不能な要因

1. 検知数が少なくなる原因となる場合：
 - a. 2人が並んで通り過ぎる場合、または向かい合って通り過ぎる場合
 - b. すぐ後ろやすぐ前を通り過ぎる（距離が20cm未満の場合）
 - c. 高速での通過（速度 > 1.5m/s）
2. 過大計数を引き起こす可能性があります：
 - a. 体の前に大きな物（例：箱、バッグなど）を運んでいる場合
 - b. ショッピングカートやベビーカーなどを押している場合

屋内設置

このセクションでは、屋内環境での本装置の設置方法について説明します。

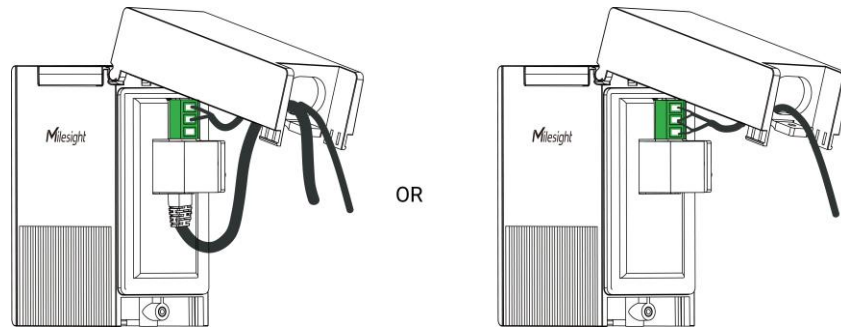
準備：

- 取り付けキット
- 取り付けブラケット
- ドライバー

手順：

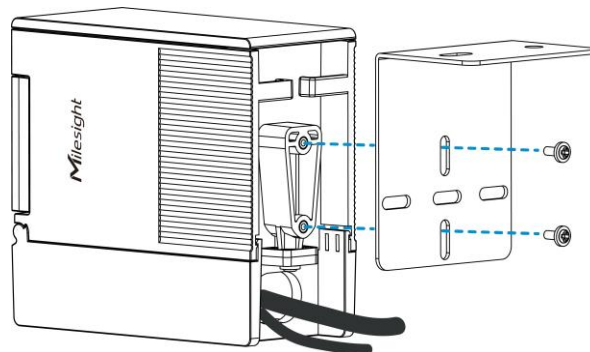
1. 必要なケーブルを接続してください。

デバイスの電源を入れる方法は、いずれか1つをお選びいただけます。

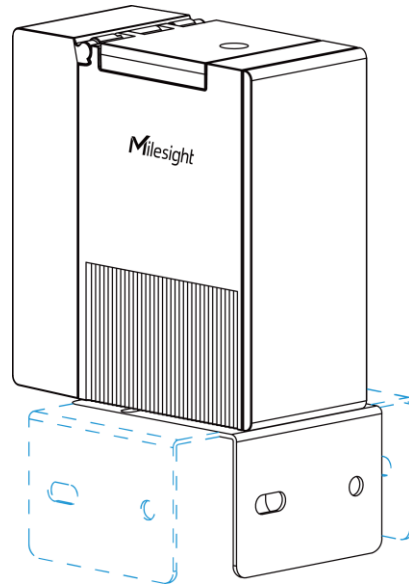


2. 取り付けブラケットの固定：

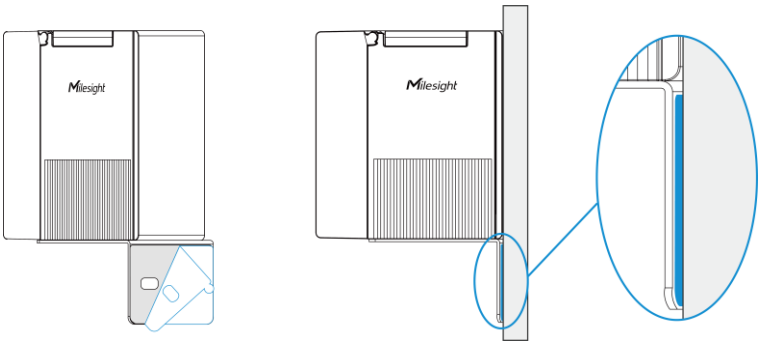
- a. 取り付けブラケットキットから小さなネジを取り外します。
- b. 取り付けブラケットの穴を、デバイスの底面にあるネジ穴に合わせてください。
- c. 図のようにしっかりと締め付けてください。

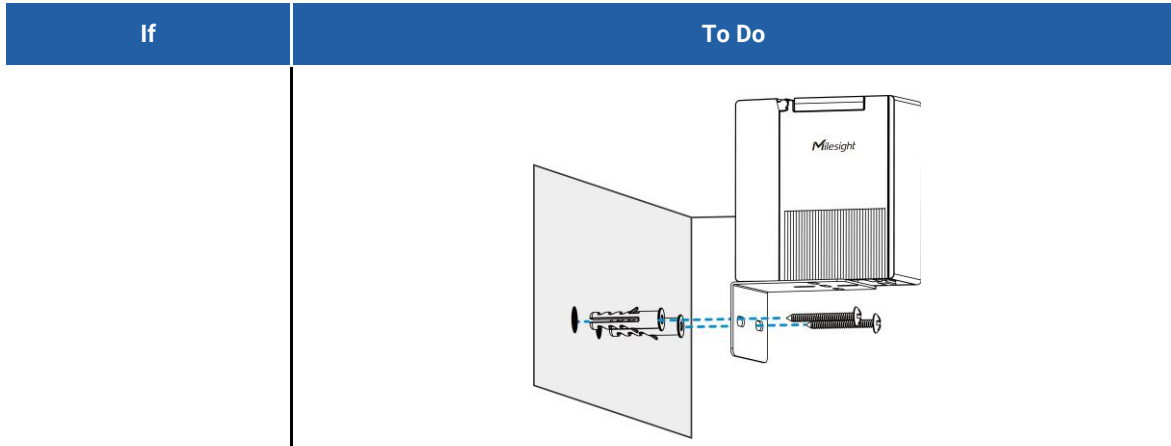


設置環境に応じて、取り付けブラケットを時計回りまたは反時計回りに90°回転させることができます。



3. 取り付け方法を選択してください。

If	To Do
<p>Adhesive Mounting</p>	<p>a. 取り付けブラケットから保護フィルムをはがしてください。</p> <p>b. ガラスや金属など、滑らかで非多孔質の表面にブラケットを取り付けます。</p> <p>c. (オプション) レンズをガラス面に接触させる必要がある場合は、屈折の影響を最小限に抑えるため、レンズをガラス面にしっかりと押し付けてください。</p> <p>d. しっかりと密着させるため、30 秒間しっかりと押し付けてください。</p> 
<p>Screw Mounting</p>	<p>a. 壁にネジ穴の位置を2か所印をつけてください。</p> <p>b. 穴を開け、壁用プラグを差し込みます。</p> <p>c. ネジを使ってブラケットを壁に固定します。</p>



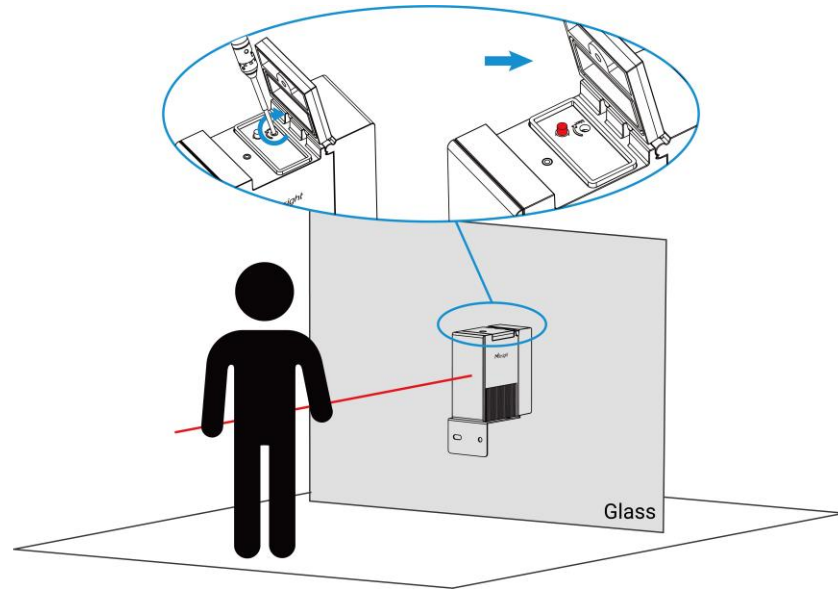
4. リフレクターを選択します。

設定したい最大検知距離を確認し、希望する場所にターゲットオブジェクトを選択または配置します。このターゲットオブジェクトは、反射板として機能するため、赤外線レンズの真正面に配置する必要があります。反射板は、距離の較正のために赤外線信号を反射するために使用されます。

- 固定された障害物（壁、バス停の待合所、手すり、その他の不透明な物体など）がある場合は、それらを直接反射板としてご利用ください。
- 固定された障害物がない場合は、アシスタントにA4用紙を監視エリアの端で反射板として持ってもらってください。

5. 検知距離を較正します（調整可能な障害物のない範囲：1～9 m）。

- a. デバイスの赤外線レンズを反射板に向けて、レンズと反射板の間に障害物がないことを確認してください。
- b. ドライバーを使って**距離調整ノブ**を反時計回りに回して最大位置まで回し、インジケータランプが赤く点灯したままであることを確認してください。
- c. ノブを時計回りにゆっくりと回して、検知距離を短くしてください。
- d. インジケータライトが消えるまでノブを調整し続け、現在の位置が希望の検知距離であることを確認してください。



注：

検知距離は照明やガラスの屈折の影響を受けます。実際の校正結果をご参照ください。

屋外設置

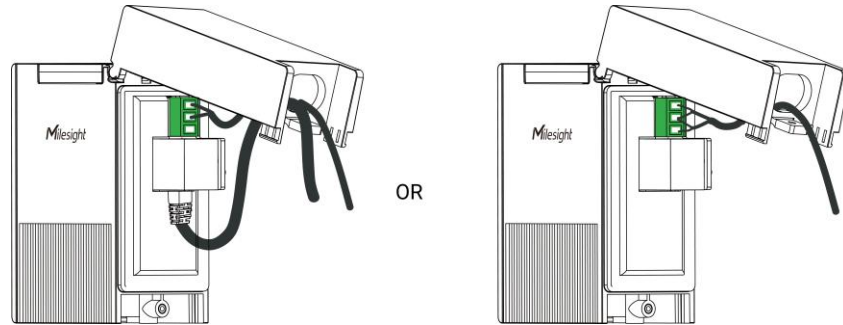
このセクションでは、粘着テープを使用した本製品の設置方法について説明します。

準備：

- 取り付けブラケット
- 取り付けキット
- 防水グロメットおよびプラグセット
- ドライバー

1. 必要なケーブルを接続してください。

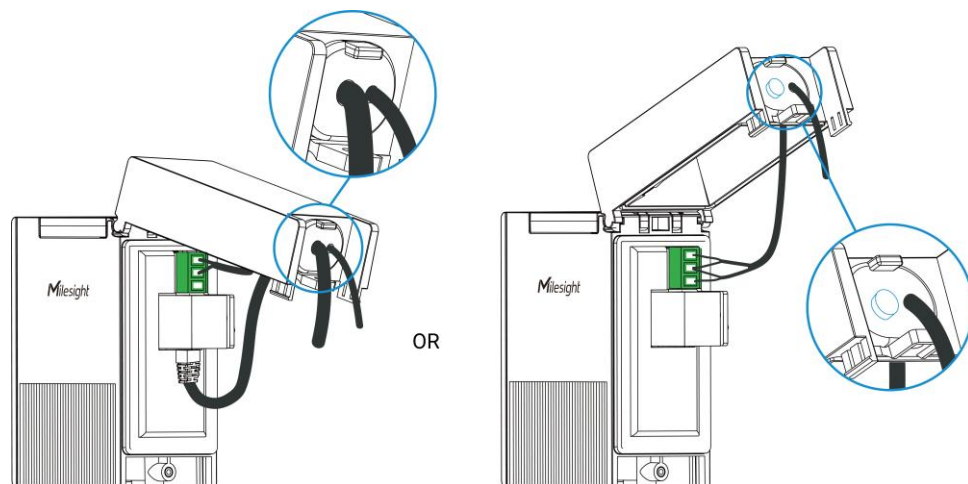
デバイスの電源を入れる方法は、いずれか1つをお選びいただけます。



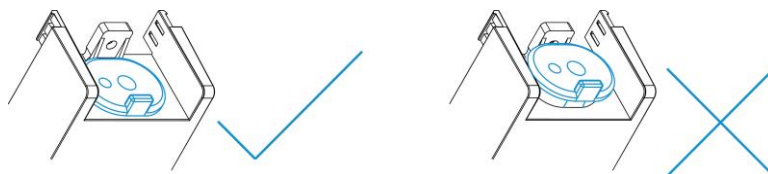
2. 防水性能を確保するために、防水グロメットおよびプラグセットをご使用ください：

a. 防水グロメットの側面に開いている穴から、端子線を防水グロメットの小さい方のポートに挿入し、その後：

- イーサネットケーブルを使用する場合は、防水グロメットの側面にある開口部から、大きい方のポートに挿入してください。
- イーサネットケーブルが不要な場合は、防水プラグを使用して大きい方のポートを密閉してください。



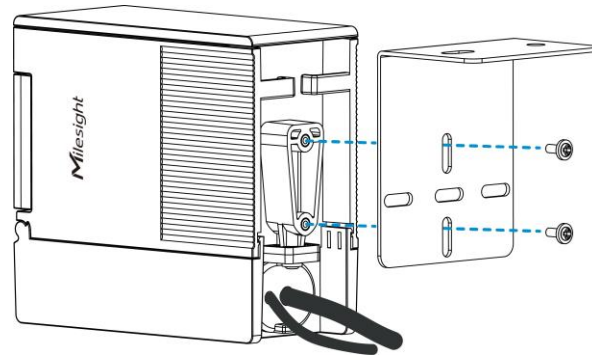
b. 図に示す位置に、ケーブルを通した防水グロメットを挿入し、完全に挿入されて密閉されるように調整してください。



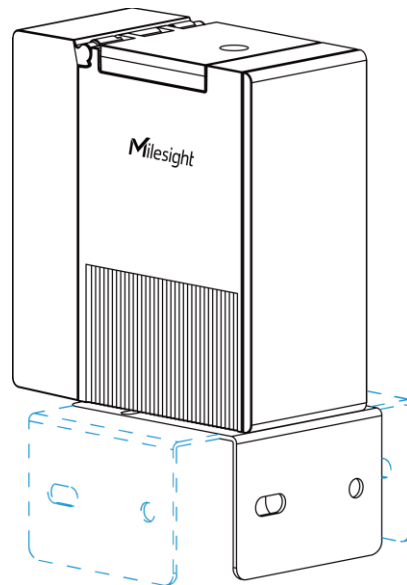
3. 取り付けブラケットの固定：

- a. 取り付けブラケットキットから小さなネジを取り外してください。
- b. 取り付けブラケットの穴を、デバイス底面のネジ穴に合わせてください。

c. 図のようにしっかりと締め付けてください。

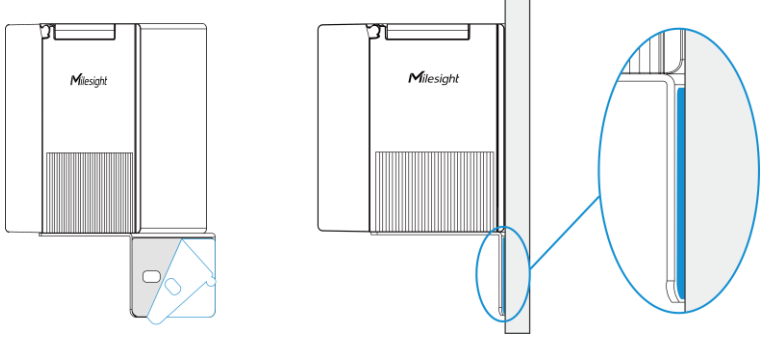
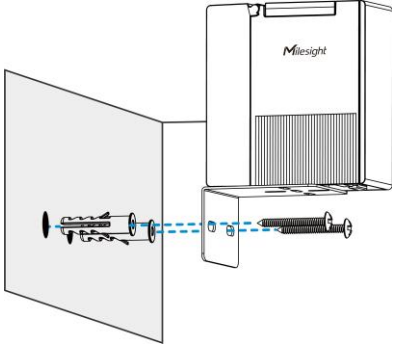


設置環境に応じて、取り付けブラケットを時計回りまたは反時計回りに90°回転させることができます。



4. 取り付け方法を選択してください。

If	To Do
Adhesive Mounting	<ul style="list-style-type: none"> a. 取り付けブラケットから保護フィルムをはがしてください。 b. ブラケットを、ガラスや金属などの滑らかで非多孔質の表面に取り付けてください。 c. (オプション) レンズをガラス面に接触させる必要がある場合は、屈折の影響を最小限に抑えるため、レンズをガラス面にしっかりと押し付けてください。 d.しっかりと密着させるため、30秒間しっかりと押し付けてください。

If	To Do
	
<p>Screw Mounting</p>	<p>a. 壁に 2 箇所のネジ穴の位置をマークします。</p> <p>b. 穴を開け、壁用プラグを挿入します。</p> <p>c. ネジを使ってブラケットを壁に固定します。</p> 

5. リフレクターをお選びください。

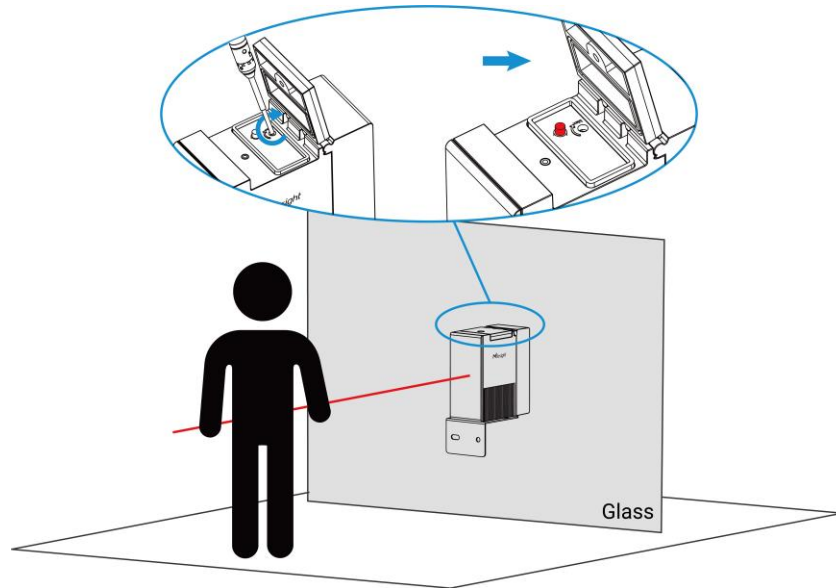
設定したい最大検知距離を確認し、希望する位置にターゲットオブジェクトを選択または配置してください。このターゲットオブジェクトは、反射板として機能させるため、赤外線レンズの真正面に配置する必要があります。この反射板は、距離の較正のために赤外線信号を反射させるために使用されます。

- 壁、バス停の待合所、手すり、その他の不透明な物体など、固定された障害物がある場合は、それらをそのまま反射板としてご利用ください。
- 固定された障害物がない場合は、アシスタントに監視エリアの端でA4サイズの内紙を反射板として持ってもらうてください。

6. 検知範囲を較正してください（調整可能な障害物がない場合の検知範囲：1～9 m）。

- a. デバイスの赤外線レンズを反射板に向けて、レンズと反射板の間に障害物がないことを確認してください。
- b. ドライバーを使用して、**距離調整ノブ**を反時計回りに最大位置まで回し、インジケータライトが赤く点灯したままであることを確認してください。

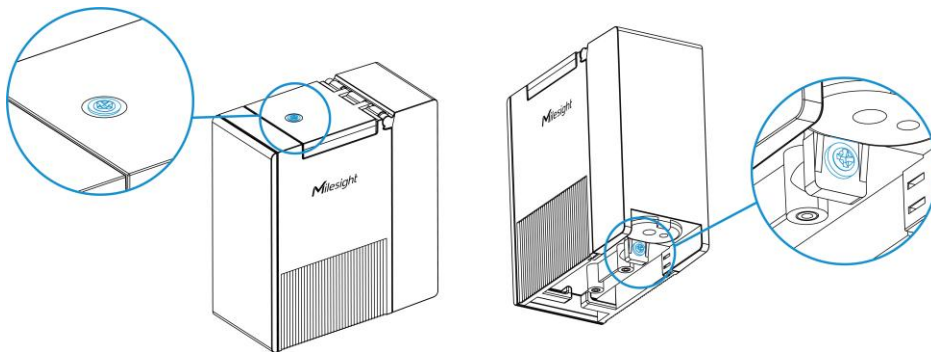
- c. ノブを時計回りにゆっくりと回して、検知距離を短くしてください。
- d. インジケータランプが消えるまでノブを調整し続けてください。ランプが消えた時点で、現在の位置が希望の検知距離となります。



注：

検知距離は照明やガラスの屈折の影響を受けます。実際の校正結果をご確認ください。

- 7. ドライバーを使用して、装置の上部と下部のネジを締めてください。



第6章 サービス

Milesightは、お客様に迅速かつ包括的な技術サポートサービスを提供しています。エンドユーザーの方は、お近くの販売代理店にお問い合わせいただき、技術サポートをご利用ください。販売代理店および再販業者の方は、**Milesight**に直接お問い合わせいただき、技術サポートをご利用ください。

テクニカルサポート用メールアドレス：

iot.support@milesight.com オンラインサポートポータ

ル：<https://support.milesight-iot.com>

リソースダウンロードセンター：<https://www.milesight.com/iot/resources/download-center/>

Milesight CHINA

TEL: +86-592-5085280

FAX : +86-592-5023065

住所：Building C09, Software Park Phase III, Xiamen 361024, Fujian, China

ウェーブクレスト株式会社

<https://www.wavecrestkk.co.jp/ms/>